

人権だより

(令和2年度11月号)

川之石高校人権委員会 担当 2年次1組

11月11日から12月10日までの1か月間は「差別をなくする強調月間」です。愛媛県では、この期間に、同和問題をはじめとするあらゆる差別の解消と人権が尊重される社会づくりに向け、県民一人ひとりの人権意識の高揚を図るため、各種啓発事業を実施するようにしています。本校でも11月20日に実施する人権・同和教育ホームルーム活動では、年次ごとのテーマで取り組む予定です。

さて、今月の見どころは次の通りです。

【今月の見どころ】

- 1 川高祭を終えて —ユニセフ募金協力のお礼—
- 2 人権啓発講演会の報告 —講師：大湾昇先生—

1 川高祭を終えて —ユニセフ募金協力のお礼—

11月4日(水)、川高祭が実施されました。人権委員会ではユニセフ募金の呼びかけを行いました。9時半過ぎから2時間弱の時間ではありましたが、クラスごとに活動しました。今年では来場制限や催し時間の短縮等があったため、事前にちらしの配布や粗品の準備をしました。その成果もあったのか、例年以上の募金が集まりました。保護者の方々、先生方、友人たちから募金と共に温かい気持ちももらいました。本当にありがとうございました。すべて日本ユニセフ協会に送金させていただきました。また、プロサッカー選手で、同協会大使の長谷部誠さんからの本校宛のメッセージを掲載します。

川之石高等学校のみなさまへ

こんにちは。プロサッカー選手で、日本ユニセフ協会大使の長谷部誠です。

ぼくは、これまでサッカーやユニセフの活動を通して、世界のたくさんの子どもたちと出会ってきました。

今、世界中が新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。ぼくが昨年訪問したバングラデシュのロヒンギャ難民キャンプでも感染者が出たそうです。難民キャンプでは、狭いところにたくさんの人が暮らし、医療体制も整っていません。感染が広がってしまわないか、とても心配しています。

同じウイルスと闘っていても、命を守る対策をとれるかどうかには、暮らす環境や国・地域によって、差があります。手洗いは感染症の予防に効果的な方法ですが、世界では、約30億人もの人たちが、自宅で手洗いができないそうです。また、世界の学校の43%には、石けんで手を洗える場所がありません。そのような環境で、どうやってウイルスから身を守ったら良いのでしょうか。

みなさんも、自分自身と、愛する人たちを守るために、手洗いや三密を避けるなど、しっかり予防しましょう。そして、同時に、自分の身を守りたくてもなかなか守れない子どもたちがいることも覚えていてください。すべての子どもたちの命と健康が守られるよう、ぜひ、ぼくと一緒に、ユニセフの活動を応援してください。

2020年10月

日本ユニセフ協会 大使
プロサッカー選手

長谷部誠



募金額 (ユニセフ送金額)

27,078 円

unicef



2 人権啓発講演会の報告 —講師：大湾^{おおわん}昇^{のぼる}先生—

11月11日(水)の3・4時限に、人権啓発講演会がありました。「あることをないことにしない」という演題でした。今年はコロナ禍のため保護者の方への案内はできませんでしたが、人権・同和問題だけでなく、私たちの生き方について背中を押していただいたような心に残るとても良いお話でした。講演の主旨と各年次の感想文の一部を掲載します。

【演題「あることをないことにしない」講演の主旨】

- ・心理テスト後、一部、嘘の内容を発表。しかし、知らないとそれが間違っているとしても信じてしまう。だから正しいことを知ってほしい。
- ・身体障がい者の母を持つケイちゃんの話。お母さんが好き。好きなことを好きと言えることはかっこいい。
- ・自分の趣味を言えない相手は友人じゃない。
- ・母が部落出身。ルーツは関係ない。自分がどう生きるかが大切。
- ・14歳のとき部落出身と言った母に「隠したらわからない」と答えたが、18歳のとき彼女から「昇さんの家、あれなんやろ!?!」と聞かれて衝撃を受ける。その後、自らを差別していたことに気づき、隠す・逃げるをやめた。
- ・小学校～高校までいじめを受けてきたが、母を悲しませたくないから学校を休まないレイナさんの話。先生の講演で自分の理解者はいると感じた。本人から「講演で自分の話をし、同じように傷ついている子を楽にしてあげてほしい」と言われた。
- ・「人権なんて関係ない、面倒くさい。」という大人にならないでほしい。



【1年次感想文から】

- ・仲の良い友達を「当たり前」でなく「大切な存在」と思い、自分の発した言葉が、相手を傷つけたり、悲しませたりしないように気を付けて発言していきたい。
- ・嫌な言葉よりも「ありがとう」などの温かい言葉を伝えられる人でありたいなと思いました。差別やいじめをしている人はとてもかわいそうだと思います。
- ・もしかしたら自分の呟いた言葉で傷ついてないふりをしなければならない人がいるかもしれません。何気なく言った言葉にも行動にも責任を持てるようにしたいです。

【2年次感想文から】

- ・今まで聞いた講演の中で、一番頭に入ってきた。でも、実は「2時間座って聞くのか。しんどい。」と思い、それを友達と話していた。誰かを傷つけてしまったかもしれない自分を責めたい。もう二度とそんな発言をしないようにしたい。
- ・「自分の趣味を言い合えないのは友達じゃない」という言葉に感動しました。その言葉を胸に高校生活を楽しんでいこうと思います。
- ・差別されていることを隠さないと生きづらい世の中は変えていくべきと考えさせられました。必要なのは「知る」ことなのかなと思いました。

【3年次感想文から】

- ・「自分が自分を好きになり、自分が自分の味方になる」という言葉がとても印象に残りました。忘れずに胸にとどめておきたいです。
- ・人の境遇や思い込みのために人を隔て、差をつけることを差別だと思っています。生徒の意識だけでなく、大人(親)の意識もみんな変えないと…。そのために自分ができることは何か考えていきたい。
- ・「あなたのその一言で傷つく人がいるかもしれない」ということに気づいてほしいし、自分自身も気を付けたいなと思うと同時に、間違えていることは間違っていると言えるように、辛い思いをしている人を助けられるようになりたいと思います。

【今月の係より】

- ・人権委員の活動として募金の呼びかけをしました。たくさんの方々に協力していただき、とてもうれしかったです。お礼にお渡ししたシトラスリボンやハートのストラップも喜んでいただき、作ったかいがあったと思いました。
- ・講演会の中でレイナさんが自分の体験を他の講演の中で話して下さいと言った勇気や自分と同じような体験をしている他の人のことを思う気持ちにとっても感動した。僕も他者のことを考えられるようにしていきたいです。